

# 第199回 中小企業の景気動向調査

調査時点	2024年2月下旬～3月上旬
調査対象期間	2024年1月～2月実績・3月予想値 2024年4月～6月見通し
調査対象企業	当金庫お取引先1,641社(大阪府内ならびに尼崎市)
回答企業数	650社 (業種・従業員数不明3社)
回答率	39.6%
調査方法	調査票郵送による回答、インターネットによる回答
分析方法	DI(Diffusion Index)を中心に分析 DIとは、売上、収益、価格、数量について、「増加」(上昇)と回答した企業割合から「減少」(低下)と答えた企業割合を差し引いた値 〔例:売上DIの場合〕 売上が「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いて求めます。

売上が「増加」した企業  
45%

「変わらず」  
20%

売上が「減少」した企業  
35%

$$45\% - 35\% = 10\% \quad \longleftarrow \text{売上DI}$$

## アンケート回答企業の内訳

業種別 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計 構成比
1～4	40	26	32	3	24	19	2	38	184	28.3%	28.3%
5～10	63	22	9	6	41	14	5	18	178	27.4%	55.7%
11～20	60	12	3	4	17	8	7	3	114	17.5%	73.2%
21～30	17	4	2	4	8	9	8	0	52	8.0%	81.2%
31～50	16	9	2	1	3	7	3	3	44	6.8%	88.0%
51～100	15	4	5	2	3	11	6	3	49	7.5%	95.5%
101～	9	5	2	0	1	6	2	1	26	4.0%	99.5%
従業員数不明	1	0	2	0	0	0	0	0	3	0.5%	100.0%
計	221	82	57	20	97	74	33	66	650	100.0%	
構成比	34.0%	12.6%	8.8%	3.1%	14.9%	11.4%	5.1%	10.2%	100.0%		

”

売上D Iは-7.5（前回比△2.7ポイント）、収益D Iは-15.7（前回比△0.9ポイント）となり、前回調査時の1-3月期の見通しと比べ、売上D Iは6.0ポイント、収益D Iは3.5ポイントそれぞれ上振れました。

売上D Iは、運輸業が3.0（前回比+26.1ポイント）、飲食業が21.0（前回比+9.8ポイント）、サービス業が-2.7（前回比+9.6ポイント）、製造業が-5.0（前回比+1.7ポイント）と4業種が上昇する一方、不動産業が-21.2（前回比△18.2ポイント）、建設業が-10.3（前回比△15.7ポイント）、卸売業が-3.7（前回比△7.8ポイント）、小売業が-24.6（前回比△5.4ポイント）と落ち込み、景気は回復への決め手に欠け、長い踊り場にあると思われる。

販売価格D Iは、15.7（前回比△4.2ポイント）、販売数量D Iは-8.9（前回比△0.2ポイント）となり、実感なき景気回復の中、日に日に顧客の節約志向は強まっています。

2024年4-6月期は、売上D Iが4.4ポイント、収益D Iが5.3ポイント、販売価格D Iが1.5ポイント、販売数量D Iが4.7ポイントそれぞれ上昇すると予測し、賃上げによる個人消費の回復に期待を寄せています。

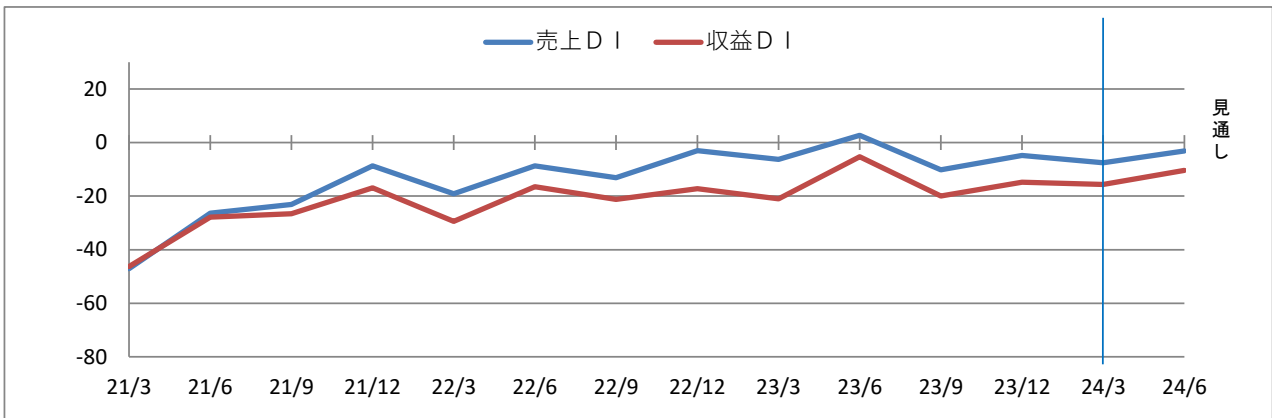
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が73.3%、「一般経費増大」が49.4%、「売上停滞減少」が48.1%、「人手不足」が40.3%と前回とほとんど変化はなく、閉塞感が強まっています。

「人手不足」は飲食業が3.9ポイント、建設業が1.0ポイント、前回比それぞれ増加しています。

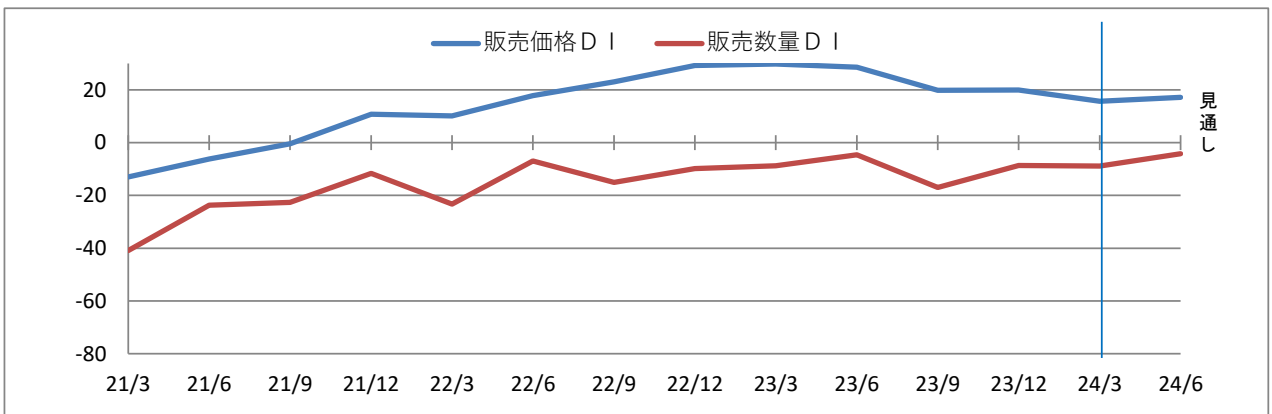
設備投資は「実施中」13.8%（前回比△1.5ポイント）、「予定あり」13.5%（前回比+1.5ポイント）の合計27.3%となり、堅調な推移が続いています。賃上げによる個人消費の回復で景況が回復することを期待していると思われ。

売上D I・収益D Iの推移

n= 650

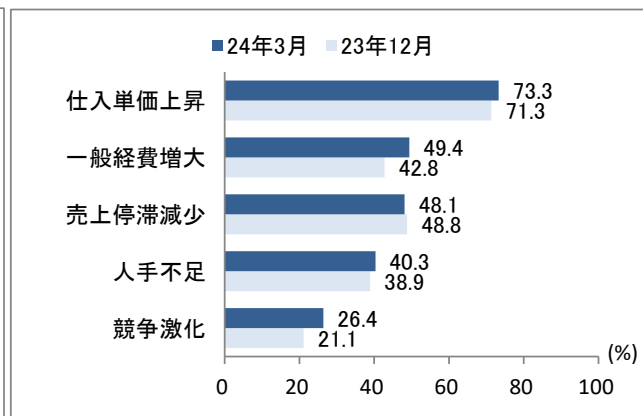
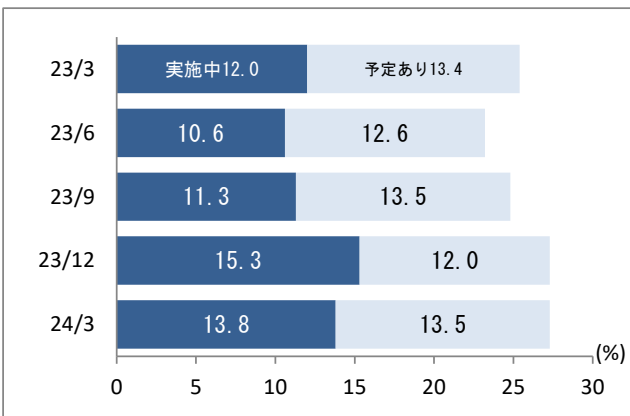


販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向

経営上の問題点



# 製造業

## 続く足踏み 決め手に欠ける景況感

売上D Iは-5.0（前回比+1.7ポイント）、収益D Iは-13.6（前回比△0.1ポイント）となり、前回調査時の1-3月期の見通しと比べ、売上D Iは12.7ポイント、収益D Iは5.0ポイントそれぞれ上振れしています。

2024年4-6月期は、売上D Iが4.6ポイント、収益D Iが2.1ポイントそれぞれ下落し、販売価格D Iが0.4ポイント上昇し、販売数量D Iが3.7ポイント下落すると見込んでいます。

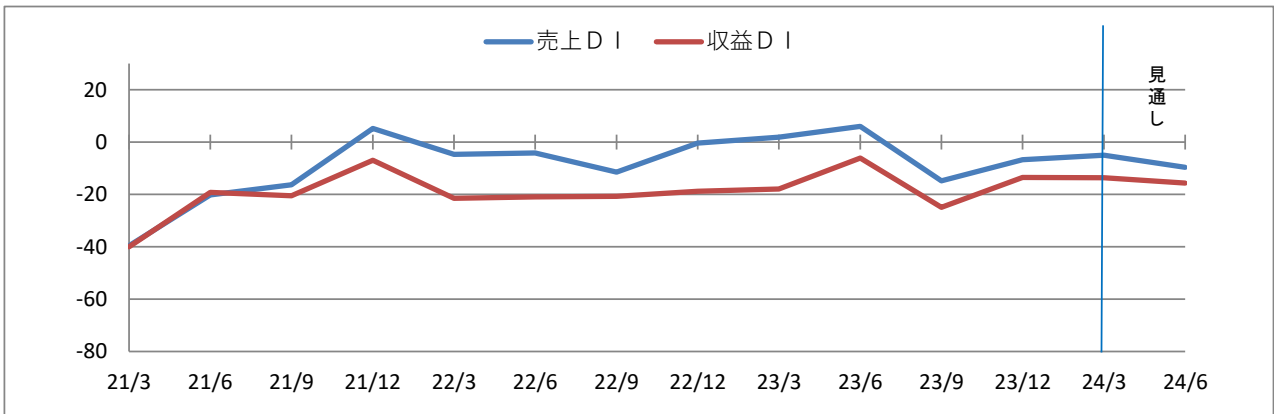
業況回復の決め手に欠ける中、回答企業からは、「原材料の高騰、人件費の増大、労働時間の短縮などの問題が、今後の中小企業の最大の課題である」、「コロナ禍での生活様式の変化で従来品の数量は減りつつある。新商品の開発が必要だ」との声が聞かれました。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が80.9%と依然最大で、「人手不足」も恒常的な問題点として長期化しています。「零細企業でこれ以上の賃上げは厳しすぎる。仕事のできる人材が辞めていくと企業の存続が厳しくなる」との声が聞かれ、解決の糸口が見つかりません。

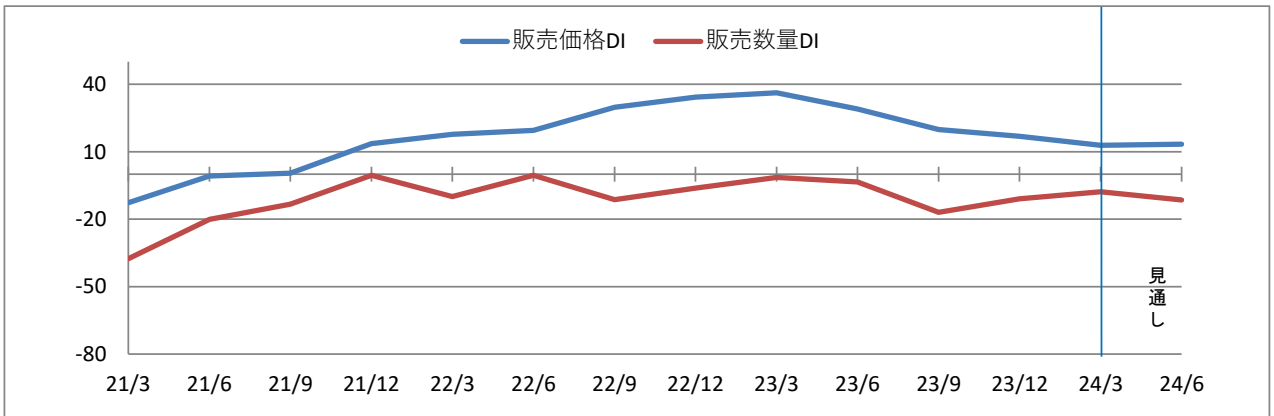
設備投資は「実施中」が13.6%（前回比△4.3ポイント）、「予定あり」が13.6%（前回比△303ポイント）で合計27.2%となり、様々な問題が長期化し、設備投資意欲が前回と比較し後退しています。

売上D I・収益D Iの推移

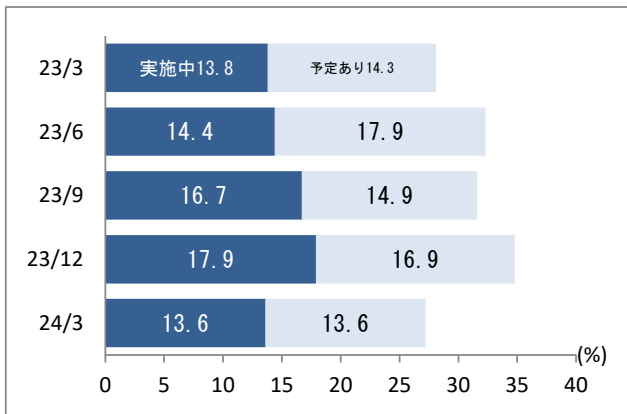
n = 221



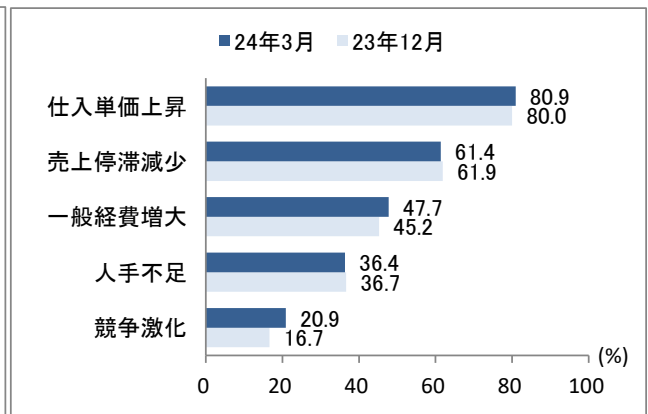
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



# 卸売業

## いつまで続く？ 一進一退

売上D Iは-3.7（前回比△7.8ポイント）、収益D Iは-17.1（前回比△11.7ポイント）となり、前回調査時の1-3月期の見通しと比べ、売上D Iは14.1ポイント、収益D Iは2.1ポイントそれぞれ上振れしています。

年末の反動だけでなく、長引く円安による仕入単価の上昇が長期化し、一般消費者の財布の紐は固く、厳しい状況が続いています。

2024年4-6月期は、売上D Iが8.6ポイント、収益D Iが18.3ポイント、販売価格D Iが2.8ポイント、販売数量D Iが15.8ポイントそれぞれ上昇すると見込んでいます。

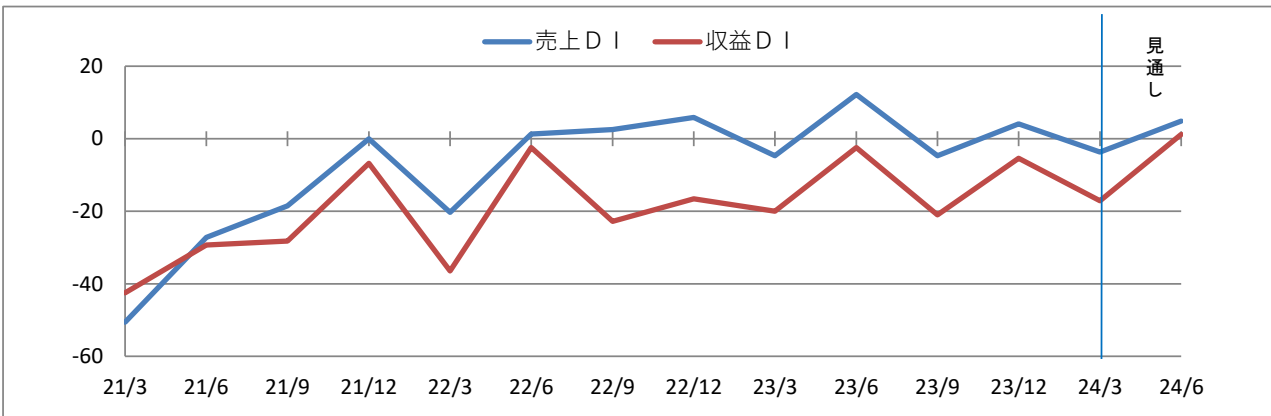
賃上げによる個人消費の回復で、販売数量の回復に大きな期待を寄せています。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が76.9%（前回比+11.1ポイント）、「売上停滞減少」が57.7%（前回比+2.9ポイント）となりましたが、「一般経費増大」が46.2%（前回比+13.3ポイント）とさらに急伸し、恒常的な問題点として定着しています。

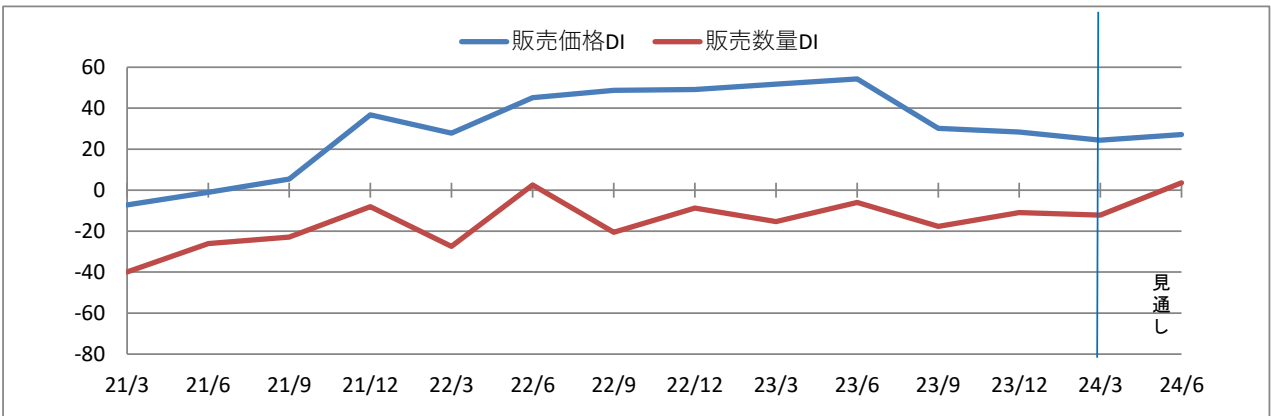
設備投資は「実施中」が11.4%（前回比△1.3ポイント）、「予定あり」が15.2%（前回比+5.3ポイント）で合計26.6%となり、設備投資意欲は堅調に推移しています。

売上D I・収益D Iの推移

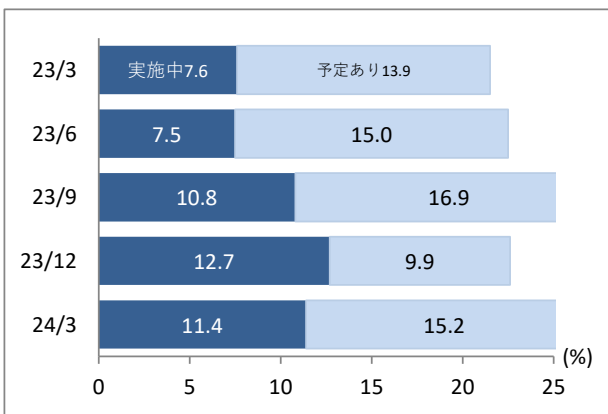
n= 82



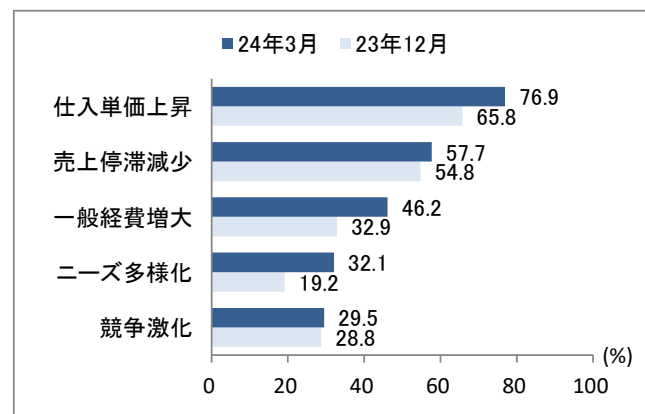
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



# 小売業

## 続く低空飛行 厳しい節約志向

売上D Iは-24.6（前回比△5.4ポイント）、収益D Iは-26.3（前回比+2.6ポイント）となり、前回調査時の1-3月期の見通しと比べ、売上D Iは9.2ポイント、収益D Iは1.3ポイントそれぞれ下振れし、苦戦が続いています。

販売価格D Iは26.3（前回比△0.6ポイント）、販売数量D Iは-24.6（前回比+2.9ポイント）となり、価格・数量とも小康状態が続いています。

回答企業からは、「製品価格の上昇が著しく顧客が離れつつある。メーカーや輸入元が直販を推し進めており、販売店をないがしろにする動きがある」との声が聞かれました。

2024年4-6月期は、売上D Iが14.1ポイント、収益D Iが7.0ポイントそれぞれ上昇すると予想しています。

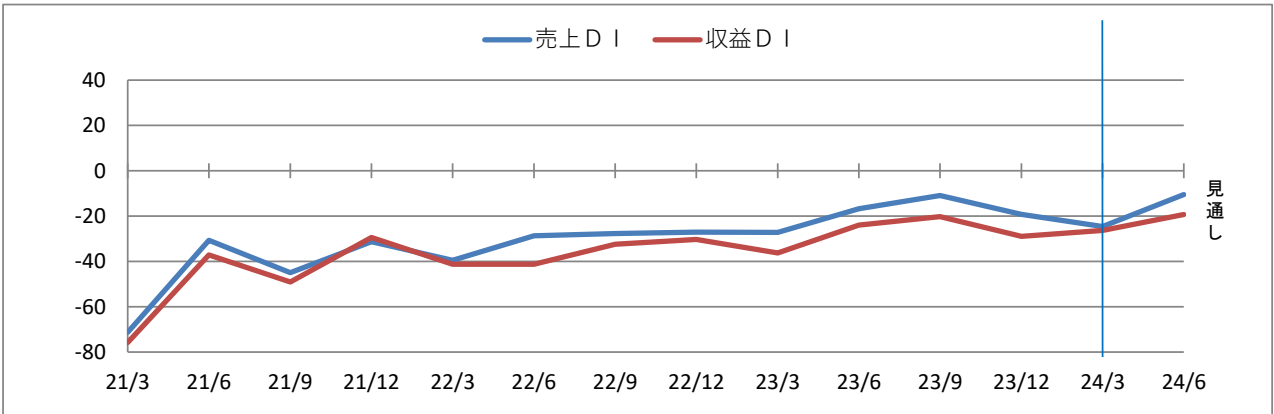
顧客の節約志向が一層強まる中、賃上げによる個人消費の回復に期待していると思われます。

経営上の問題点は、「仕入単価の上昇」が69.1%（前回比△7.8ポイント）と最大ですが、「売上停滞減少」が54.5%（前回比+16.0ポイント）に急伸し、さらに深刻化しています。

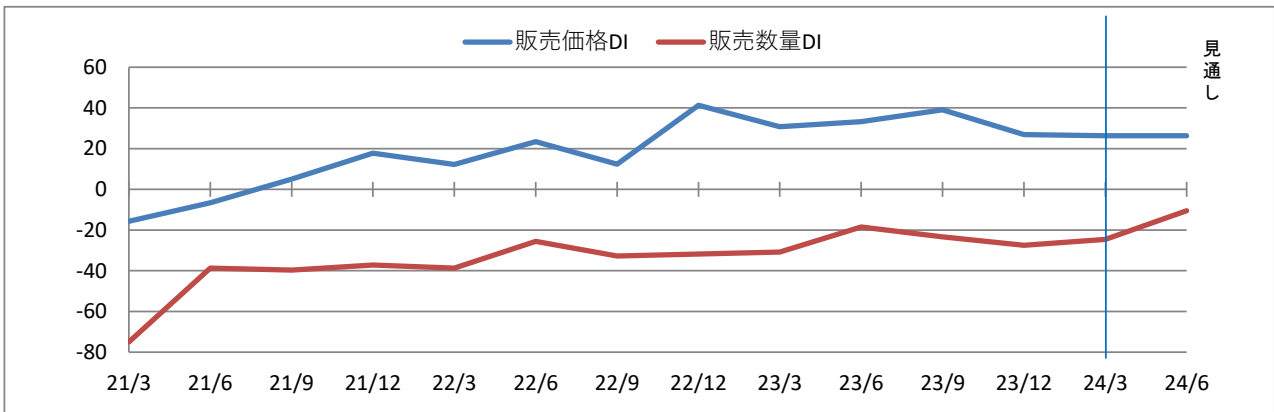
設備投資は「実施中」10.9%（前回比△2.8ポイント）、「予定あり」が3.6%（前回比△4.2ポイント）で合計14.5%となり、業況の低迷を背景に、設備投資意欲は後退しています。

売上D I・収益D Iの推移

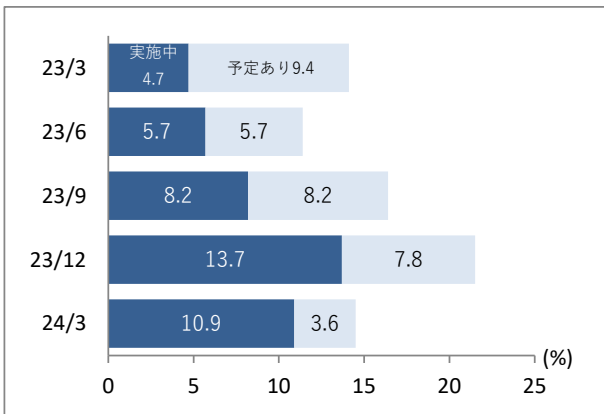
n = 57



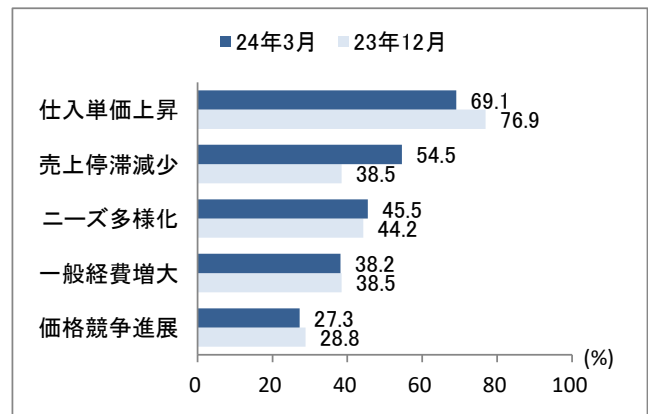
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



# 飲食業

## 繁華街と郊外の二極化

売上D Iは21.0（前回比+9.8ポイント）、収益D Iは-15.7（前回比+6.5ポイント）と、前回調査時の1-3月期の見通しと比べ、売上D Iは26.6ポイント、収益D Iは12.1ポイントそれぞれ上振れしています。

販売価格D Iは33.3（前回比△7.8ポイント）、販売数量D Iは16.7（前回比+34.4ポイント）となりました。材料費の上昇はやや落ち着き、繁華街では歓送迎会やインバウンド需要により好調ですが、郊外飲食店ではその影響は小さく、地域によって二極化が進んでいます。

2024年4-6月期は、売上D Iが5.2ポイント、収益D Iは0.1ポイント、販売価格D Iは22.2ポイント、販売数量D Iは5.6ポイントそれぞれ下落すると予想しています。

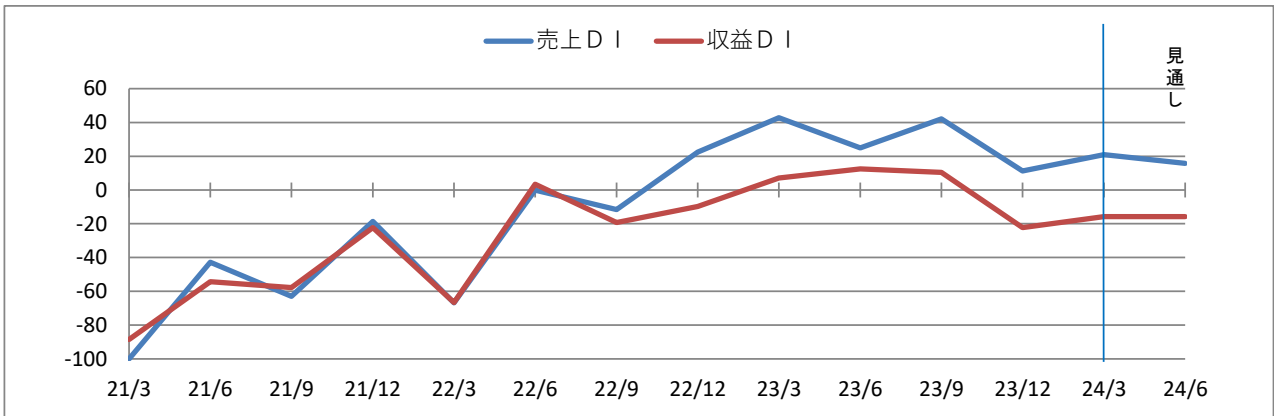
4月から賃上げによる個人消費の回復に期待が寄せられますが、消費者の財布の紐は固く、先行きに厳しい視線を向けています。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が90.0%（前回比△10.0ポイント）、「一般経費増大」が75.0%（前回比+25.0ポイント）、「人手不足」が65.0%（前回比+3.9ポイント）と深刻な問題として定着しています。

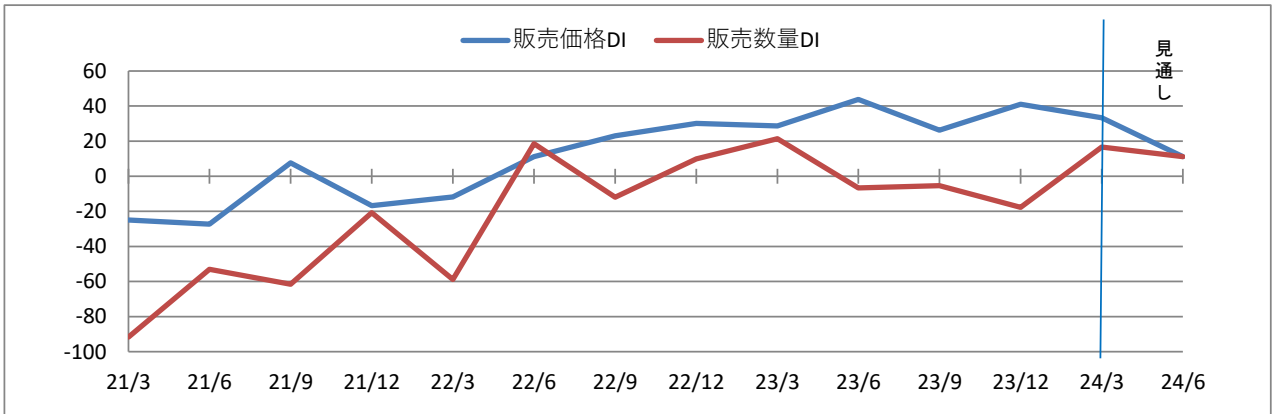
設備投資は「実施中」が10.0%（前回比△19.4ポイント）、「予定あり」が25.0%（前回比+19.1ポイント）で合計35.0%となり、予想を上回る回復を背景に、設備投資意欲は大きく回復しています。

売上D I・収益D Iの推移

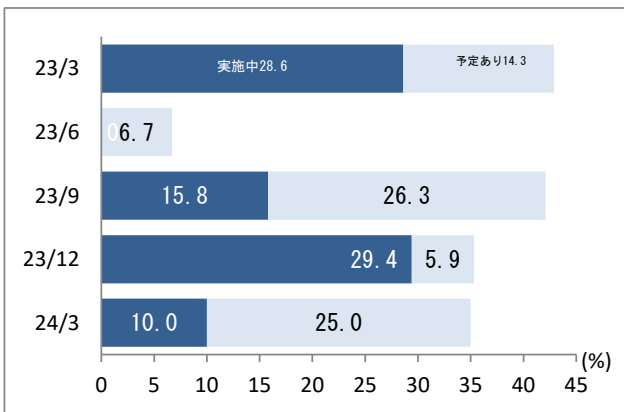
n= 20



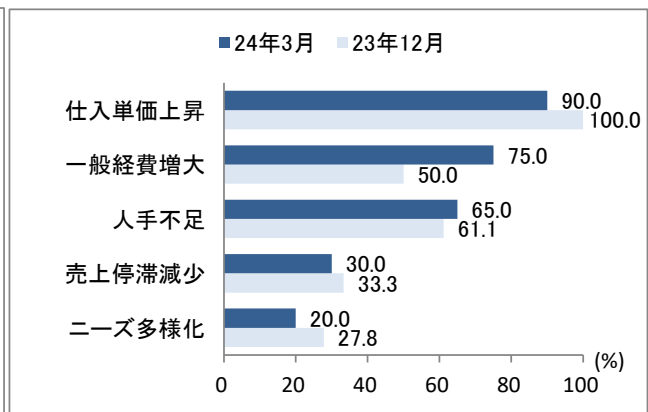
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



# 建設業

## 購入か待つか？ どうなる賃金・金利

売上D Iは-10.3（前回比△15.7ポイント）、収益D Iは-13.6（前回比△14.7ポイント）と下落し、一進一退の状況にあります。前回調査時の1-3月期の見通しと比べ、売上D Iが9.2ポイント、収益D Iが8.2ポイントそれぞれ下振れしています。

販売価格D Iは9.9（前回比△13.3ポイント）、販売数量D Iは-3.8（前回比△17.5ポイント）それぞれ下落し、価格・数量ともに後退しています。

大阪の公共工事は、2月現在、件数・請負金額ともに前年比増加傾向にあります。しかし一般住宅は価格が高止まりし、賃上げの動向が見通せない中、購入を迷う消費者が多く、安定した売上を維持できない状況が続いています。

2024年4-6月期は、売上D Iが7.1ポイント、収益D Iが4.1ポイントそれぞれ上昇すると予想しています。

経営上の問題点は、依然として「仕入単価上昇」が78.4%（前回比+0.1ポイント）と最大の問題点ですが、

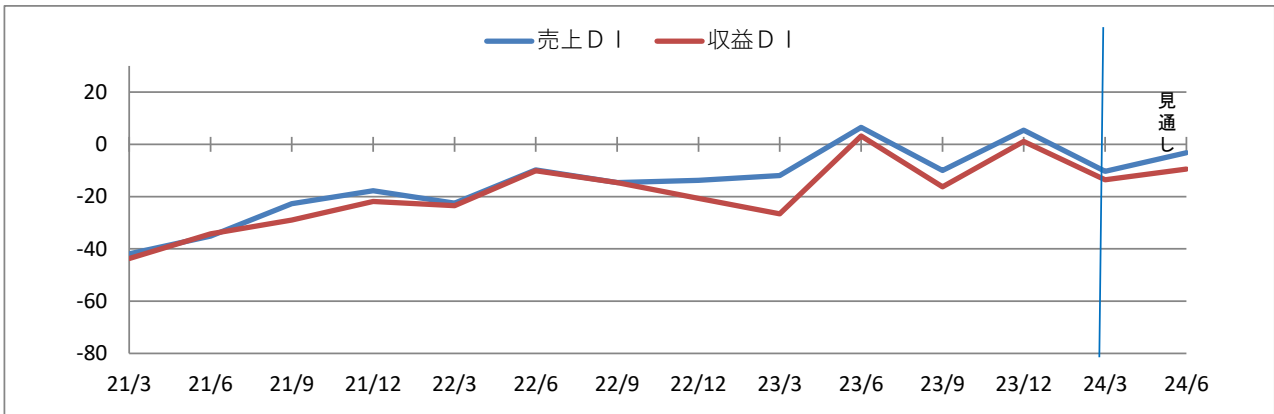
「人手不足」は61.9%（前回比+1.0ポイント）と高止まりしています。

回答者からは、「人員不足解消のため社員の昇給をしたいが価格転嫁が難しく、大幅に昇給できない」という声が聞かれました。

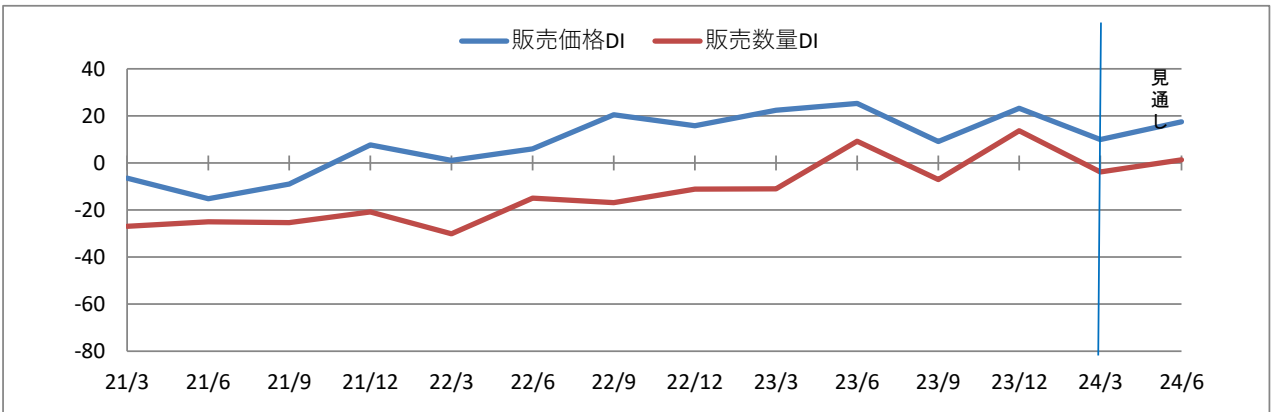
設備投資は「実施中」が7.3%（前回比△3.6ポイント）、「予定あり」が17.7%（前回比+7.9ポイント）で合計25.0%となり、前回調査から設備投資意欲は上昇しています。

売上D I・収益D Iの推移

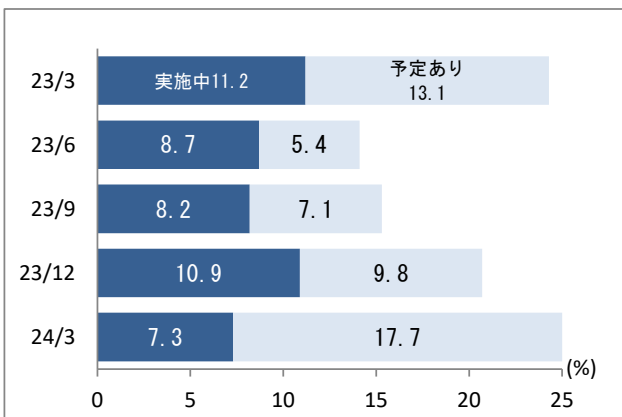
n = 97



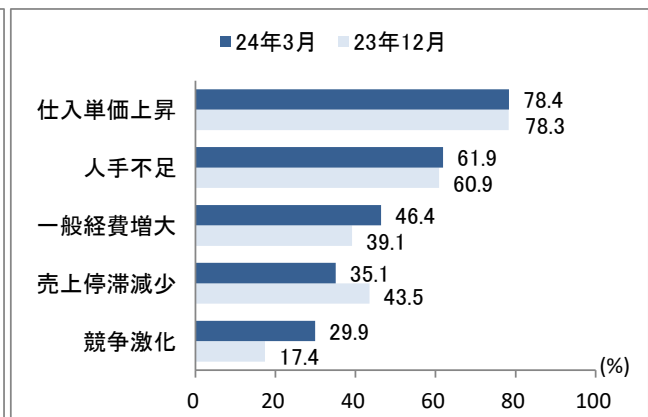
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



# サービス業

## 販売価格浸透するか 厳しい人手不足感

売上D Iは-2.7（前环比+9.6ポイント）、収益D Iは-10.9（前环比+17.2ポイント）と大きく上昇しました。前回調査時の1-3月の見通しを売上D Iは12.8ポイント、収益D Iは13.2ポイントそれぞれ上振れしています。

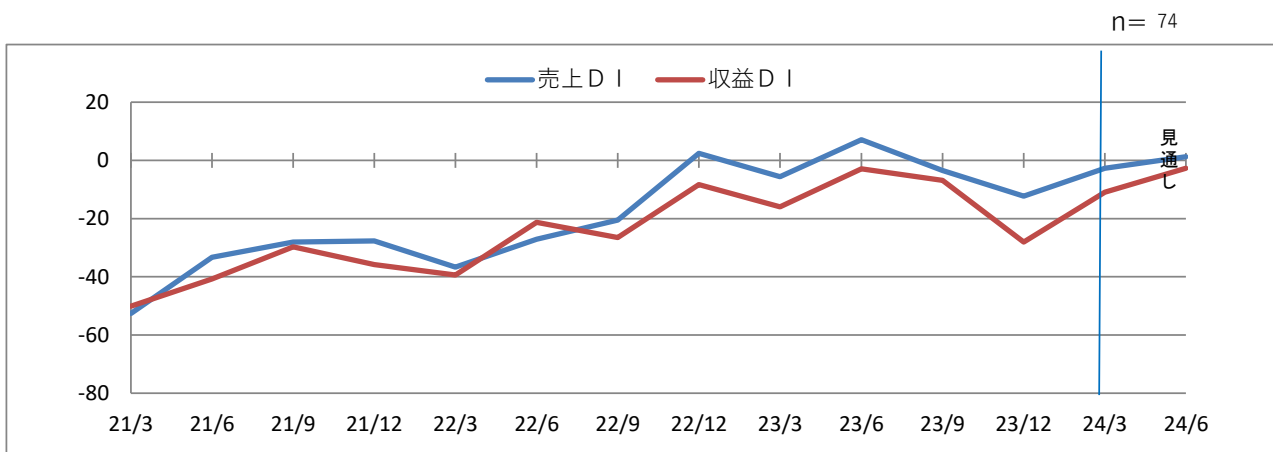
販売価格D Iは14.0（前环比+14.0ポイント）、販売数量D I 0.0（前环比±0.0ポイント）となり、販売価格の上昇が売上の回復に繋がっています。

2024年4-6月期は、売上D Iが4.0ポイント、収益D Iは8.2ポイントそれぞれ上昇し、販売価格D Iが0.2ポイント下落し、販売数量D Iが8.6ポイント上昇すると予想しています。

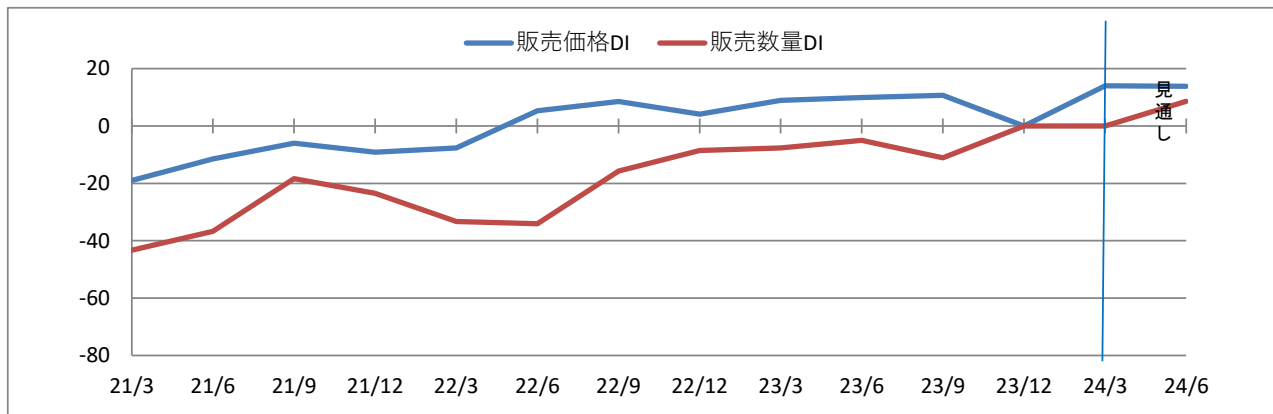
サービス価格のこれ以上の上昇は、顧客の節約志向を背景に上げが難しい状況です。

経営上の問題点は、「人手不足」が57.5%（前环比△1.4ポイント）と深刻であり、回答者からは、「人手不足のため販売機会を逃している」という声が聞かれました。また、「一般経費増大」が57.5%、「仕入単価上昇」が46.6%に上昇し、厳しい状況が続いています。

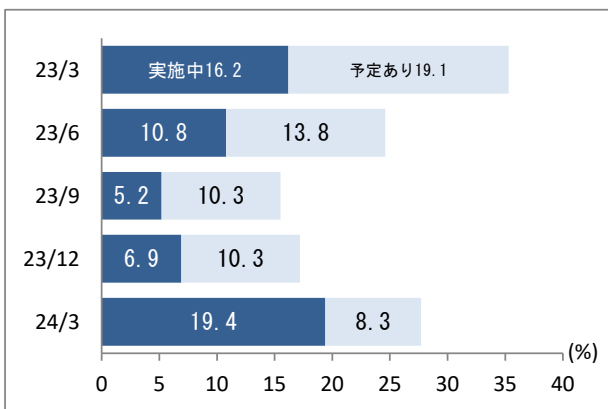
設備投資は「実施中」が19.4%（前环比+12.5ポイント）、「予定あり」が8.3%（前环比△2.0ポイント）で合計27.7%となり、設備投資意欲は前回から大きく上昇しています。



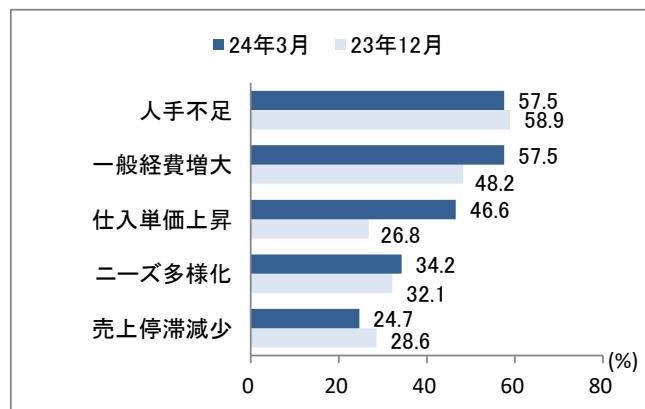
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点





# 運輸業

## 影響危惧 2024年問題

売上D Iは3.0（前回比+26.1ポイント）、収益D Iは-15.1（前回比+27.2ポイント）とそれぞれ大きく上昇しました。

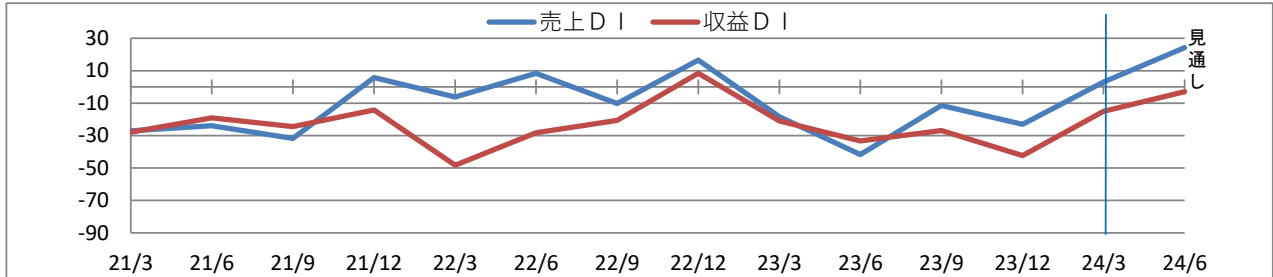
前回調査時の1-3月の見通しから、売上D Iは3.0ポイント、収益D Iは19.5ポイントそれぞれ上振れし、2024年4-6月期は、売上D Iが21.2ポイント、収益D Iは12.1ポイントそれぞれ上昇すると予想しています。

賃上げによる個人消費の回復で、多くの物流が発生すると予想しています。

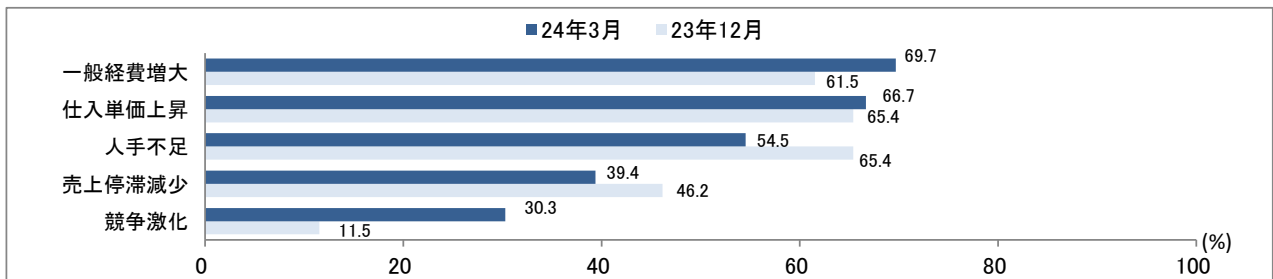
経営上の問題点は、「一般経費増大」が69.7%、「仕入単価上昇」が66.7%、「人手不足」が54.5%となりました。燃料費の高止まりは長期化し、2024年問題への対応が大きな課題となっています。

売上D I・収益D Iの推移

n= 33



経営上の問題点



# 不動産業

## 物件高止まり 不安な金利先行き

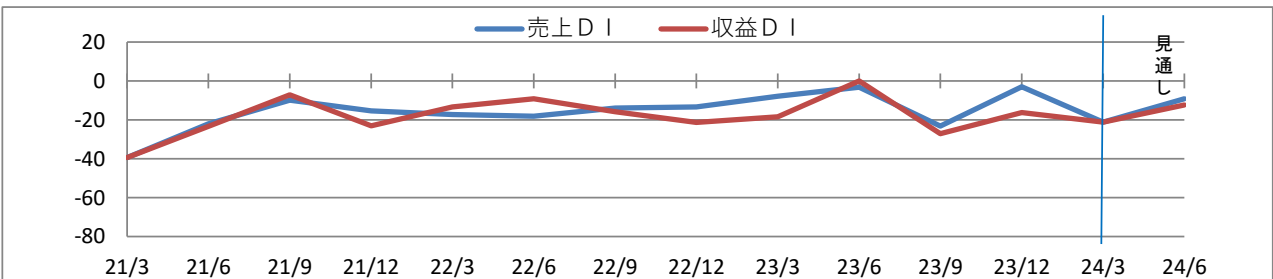
売上D Iは-21.2（前回比△18.2ポイント）、収益D Iは-21.2（前回比△5.0ポイント）それぞれ下落し、前回調査時の1-3月期の見通しから、売上D Iは3.5ポイント下振れし、収益D Iは2.4ポイント上振れました。

市内だけでなく郊外物件も価格は高止まりし、消費者は購入時期を迷っています。

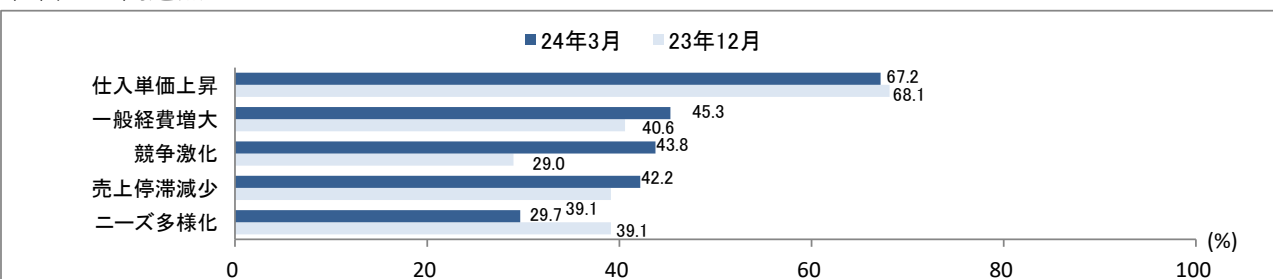
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が67.2%となり、金利動向が見通せない中、売上高の回復が見通しにくい状況です。

売上D I・収益D Iの推移

n= 66



経営上の問題点

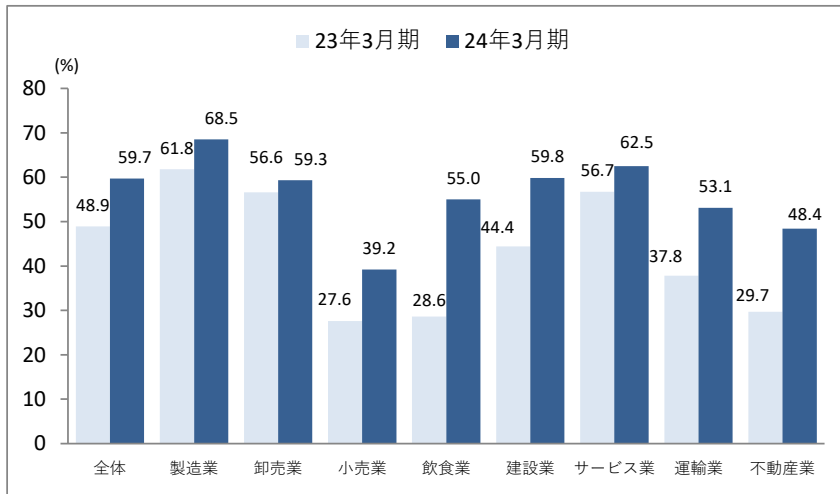


# 賃上げについて

## 6割賃上げ 全業種で昨年比上昇

賃上げ実施予定企業の割合（業種別）

回答企業数：636社



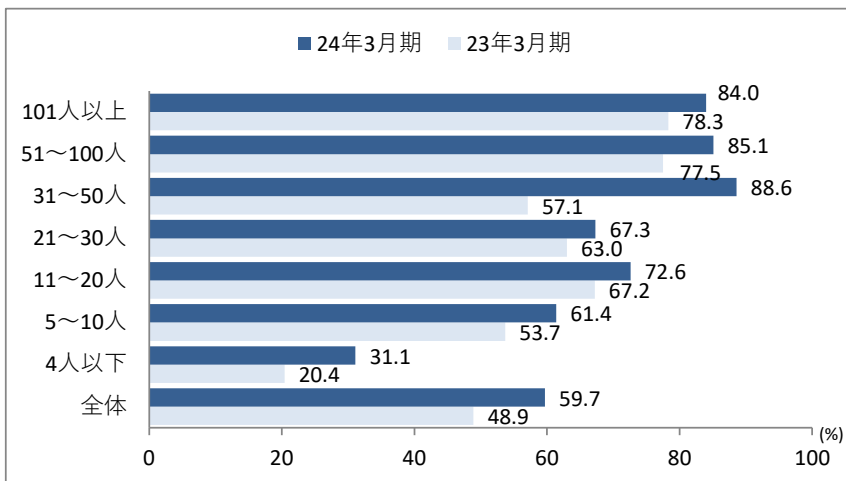
「実施予定」が59.7%となり、昨年と比べて10.8ポイント上昇しました。

長期化する人手不足に対応するため、各社賃上げに取り組まざるを得ない状況で、すべての業種で昨年比上昇しました。

中小企業にとって、従業員の流出は死活問題に直結し、業況の先行きがはっきり見通せない中、苦渋の決断を下しています。

賃上げ実施予定企業の割合（従業員数別）

回答企業数：636社

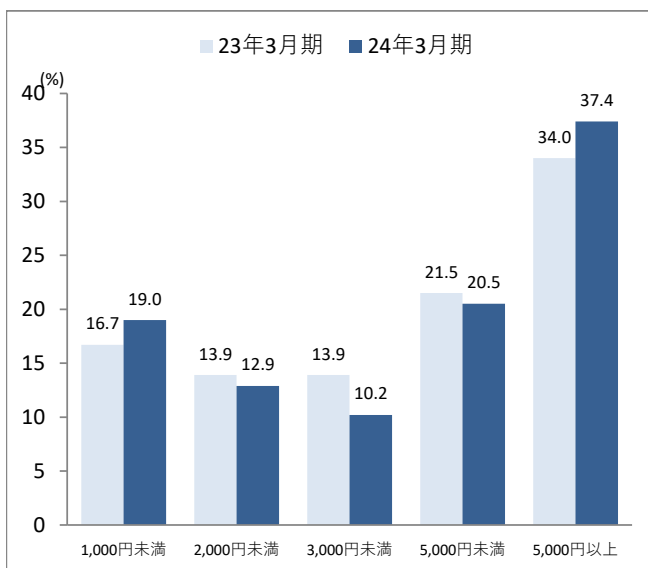


従業員数別で賃上げを実施するのは、親族経営の色合いが強い4人以下が31.1%と低く、従業員5人超の企業で全体の平均59.7%を上回る賃上げ実施率となりました。

ベースアップ、定期昇給とも「5,000円」以上が最も多く、人員確保や流出防止に向け、思い切った賃上げを実施しようとしています。

ベースアップ予定額

有効回答数：342社



定期昇給予定額

有効回答数：336社

